

生命の交わり

NO

1998.11.1

しかし、神は私の魂と贖い
陰府の手から取りあげて下さる。

詩編 49: 16

今日、この礼拝で、お読みいただいた聖書、
詩編 49 編の 16 節には「しかし、神は私の魂
を贖い、^{陰府}の手から取りあげて下さる」と記されて
います。この「しかし」というのは何に對し
てか、と文脈をみますと 13 節の「人間は
栄華のうちにとどまることができない」や、
18 節の「死ぬときは、何ひとつ携えて行く
ことができず、名誉が彼の後を追って
墓に下るわけでもない。」を受けてい
ます。

新約聖書にも同いようなことばが、
〈イエスのたとえばなし〉としてつづいてい

「ある金持ちの畑が豊作だった。金持ち
ちは『どうしよう。作物をしま、ておく場所
がない』 と思、て巡、てみた、やがて言った。

『どうしよう。倉を壊、て、もっと大きいのを建て、
そこに穀物や財産をみなしまい、こう自分に
言、てやるのだ。』さあ、これから先何年も生
き、てゆけるだけの蓄、えができたぞ。ひととき
は、食べ、たり、飲、んだりして享、けよう』 かし
神は、『愚、かな者よ、今夜、お前の命
は取り上げられる。-----』 自、己のそ、め、に
富を積、み、ても、神の 前に豊、かにた、る、た、り、
ものはこの通りぞ』 ----- だが、神の
罰を求め、たい。 そうすれば、これらのものは
加、え、てと、り、取、られる 々

「死ぬとき、何かを携えて行くことが
できず」名譽が彼の墓に下りわけではない。
とは、私たちの有形、無形の所有が、
神の許で、役立ちたいはなく、神の
許では、ただ、神ご自身の賜われ、
恵だけが意味をもっているということ
を、この言葉は示しています。

詩編では、「神は、わたしの魂を贖い」と
告げます。この〈贖い〉とは、〈償いもせず〉
ですが、あの註解者は、〈生命の交わり〉
を持つ、ということだ、と註解をい
います。有形、無形の所有にしがみ
つく魂を解放し、孤立したもの
に〈交わり〉をもたせよということ

です。

私の心の経験を、お話ししたいと思います。
あの方から、お身内の葬儀を依頼
されました。そのお身内は、もうし
ばらくご親族との交わりもどろえ
勝ちの方でした。人生を上手に生き
ることが苦手で、独りで、試行
錯誤を繰り返して、それでも一生
懸命に生きてこうされました。その
方の最後を新聞はこう記していました。
「Kさん(54才)運転ワゴン車か
セーターラインを越え主婦のバス(31)
運転の乗用者に衝突、Kさんは全
身を強く打って約一時間後に死
亡した」

私はご生前のKさんを存じあげません。 ⑤

しかし、この方が私たちに生涯をかけて語りかけ、
下さるものを思いつつ、神の国に下さる私たちの一人として
小さな骨つぼみに入ってしまったTさんの

葬儀も、私は、聖書の言葉に

報りたのみつつ、させているごきずき

「人は皆、罪を犯して神の栄えを受け

られなくなるが、ただ、キリスト・イエス

による贖いの業を通して、神の恵みにより、

無償の義とされるが、」

と、ドストイエフスキーが「罪と罰」の

中にも述べている。「自ら救いに値しない

と思っている故に、神の国に招き入れられる」と
述べている場面を

自からに言いかせつつ、小さ

にたつ「人々」

な骨つぼみとの交わりは、神の与え給う

いのちの交わりなのだと感じつつ葬儀と

とり行いました。

~~317 1.1-4 528~~

人生、功なき自分を思わないものがあるように
 ようか。 他人から見れば、その成功者で
 あり、大いなる業績を残した者である、その
 人生は、やるときにこそ、何なのかに一瞬、そ
 の空虚さに見舞われない人はあいません。

功なきがゆゑにこそ救ひに値すよ といふ逆説
は、私たちの、日々の思いでもありやう。

K 氏は、それを 認める、味方になるであろう
と思うと、私よりも、もっとも、深く歩み入
り、いのちとの関わりを抱きまわす。

お身内のオ々とトキ人とは、信仰によつて、
新しい交わりが"始"つたのだ、それは、
生者と死者との交わりであり、神の与え給ひ
1195の交わりなのだといひます。

永眠者 記念日時 には、いゝも 二つ
の時が流れてゐる。

一つは、年代をきぎむ時です。

〈あの人はもういない〉という歌のことが
ように、流れの時です。和えてもその

中に立っています。今日、日曜 12 時の
の 11 人かのは、この納骨堂に自分の
分の入る場をもたせよう、自分が骨
ついで、ここに置かせる後、この日曜が
ここに何年かを想像しています。

どのような想像を、豊かにするに
でもとは、神が与え給う、11 人の
交わりを想うことが許され、信じるに
許されることです。このような時は、

流れの時ではなく、与えらる時。

交わりの時です。

1195a 交わりの時

を生きるとは、神に与るに豊かな時です。

11月11日。

11月11日に於て。

11月11日の交際を、11月12日

11月11日。11月12日を含む。

11月11日、11月12日、11月13日。